

研究者情報

氏名	狩野 奈緒子
役職	桜の聖母短期大学 生活科学科 教授
所属	桜の聖母短期大学 生活科学科 福祉こども専攻 こども保育コース
最終学歴	宮城教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻専修 修了
学位	教育学修士 (宮城教育大学 2001年3月)
専門分野	障害児教育 保護者相談支援
所属学会	日本保育学会 日本発達障害学会 日本LD学会 日本小児保健協会
主要担当科目	障害児保育 保育内容演習言葉 こどもとことば 保育基礎演習 こどもと絵本 保育相談実践演習 保育内容総論 保育課程論 幼児理解の理論と方法 福祉学 特別研究こどもとことば 等
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ子どもや保護者の関係支援、子育て支援広場における親子関係支援と学生の体験的な学修の方法と体系化についてなど ・実習指導の体系化と教科間連携、対話的学修の実践報告と検討 ・発達障害学生の学修支援に関して、学内における組織的な体系化と支援スキルの構築

研究業績／教育実績(主な著書・論文)

区分	著書・論文名等	発行所・掲載誌(書)・著書等	発行等年月
論文	1 子育て支援広場における学生の「子育て支援力」育成の試みー「親子クッキング」を活用したアクティブラーニング	桜の聖母短期大学紀要 第41号	平成29年3月
	2 桜の聖母短期大学「親と子の広場」における親子関係支援 第4報ー発達の課題に向き合う保護者を地域で支えるためにー	桜の聖母短期大学紀要 第40号	平成28年3月
	3 東日本大震災後の子育て支援広場での育ち合いー実践と対話の中で学び続ける保育者養成を目指してー	『子育て支援と心理臨床』Vol.11 福村出版	平成28年2月

	<p>4 保育参加観察を活用した実習指導の体系化—1年次「保育基礎演習」から始まる学び—</p> <p>5 桜の聖母短期大学「親と子の広場」における親子関係支援 第3報—「かかわりの難しさ」と「育てにくさ」を支援する試み—</p> <p>6 桜の聖母短期大学「親と子の広場」の推移と現況～「子育て支援センター」設立に向けての課題と展望～</p> <p>7 エピソード記録を活用したグループワーク - 実習事後指導の中での対話の重なり -</p> <p>8 子育て支援広場における「保育相談実践演習」の取り組み - 学生の参加観察後のカンファレンスの活用 -</p> <p>9 桜の聖母短期大学「親と子の広場」における親子関係支援 第2報 - 学生とともに望ましい発達支援を探る -</p> <p>10 実習事後指導のグループワークの取り組みにおける一考察 - OST を活用して -</p> <p>11.子ども理解を深める実習記録改訂 - 実習事前指導における活用法の検討 -</p> <p>12 桜の聖母短期大学「親と子の広場」における親子関係支援第1報 - 東日本大震災後の</p>	<p>桜の聖母短期大学紀要 第39号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第39号</p> <p>人間学研究所所報 Vol.20</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第38号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第38号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第37号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第37号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 第37号</p> <p>桜の聖母短期大学紀要 36号</p>	<p>平成27年3月</p> <p>平成27年3月</p> <p>平成27年3月</p> <p>平成26年3月</p> <p>平成26年3月</p> <p>平成25年3月</p> <p>平成25年3月</p> <p>平成25年3月</p> <p>平成24年3月</p>
--	---	---	--

	親子関係支援を通しての一考察 -		
--	------------------	--	--

主な社会貢献活動

社会貢献活動	活動年月日
福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 キンダーコーディネーター養成講座講師	平成 28 年 12 月
南相馬市 就学時検診 子育て講座講師	平成 24 年 10 月～
南相馬市 母子健康推進員養成講座 講師	平成 24 年 7 月～25 年 7 月
本宮市 NPO 法人いどばた会 ファミリーサポーター養成講座講師	平成 26 年 2 月 ～現在
福島市 NPO 法人まごころ こども緊急サポートネットワークスタッフ養成講座 講師	平成 26 年 5 月
福島県保育者養成校連絡会 研究委員	平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月
福島県社会福祉協議会人材センター運営委員	平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月

特別研究

テーマ/概要	<p>こどもとことば</p> <p>子どもの言葉の発達を支えるかかわりやその課題について、実習場面や「親と子の広場」での参加観察などの実践を通して、テーマを設定し研究する</p>
特別研究内容	<p>実践場面やかかわりの体験の中で、エピソード記述を行い、特別研究メンバーとのカンファレンスを行いながら、教員がスーパーバイズを行う。メンバー同士のエピソードについて考え合う中で、エピソードから考えられる主題を絞り込む形式をとっている。</p> <p>テーマとしては実習で出会った、障害を持つ子ども(診断がつかない疑いの子どもを含めて)の事例を取り上げ、保育の経過の中での成長の様子や、保育者の関わりについての観察事例報告、また保育の中で児の困り感に対する配慮の工夫などへの言及などが考えられる。</p> <p>また、言葉を育む保育環境の工夫、特に人的環境としての保育者の関わりや子どもの言葉を含めて個性的な表現の意味について取り上げる場合も多い。</p> <p>親と子の広場においては、個別の事例報告をはじめ、保育者や学生と親子の育ちあいなどの相互関係を参加観察の中で体験的に学び考察してきている</p>

